2020 ICM Trial Council Meeting（評議会）報告

谷口初美
前 ICM Western Pacific 担当理事
福岡女学院看護大学　副学長・教授

2020 年度は、Covid-19 の世界的な猛威で ICM の 3 年毎の評議会・学術集会を大きく変更せざるを得なかった。今年 6 月インドネシアの Bali 開催の評議会・学術集会は、来年の 6 月に延期された。しかし、会期中に早急期決めなければならない役員人事、2020～2023 における ICM の戦略的方針や決議案に関しては、電子評議会となり、その準備が 3 月末から 6 月にかけて実施された。

初となる電子評議会

電子評議会の開催は初めてで、事務局があるオランダが都市封鎖されたため ICM スタッフは在宅勤務で ICM のホームページに Council Platform を立ち上げた。そこから必要な説明書類、詳細なビデオファイルを閲覧し、ディスカッションボードで意見を述べ、投票することができるシステムで、全世界の会員団体にとっても初めての試みのため、使用方法への指導を徹底し、全体評議会の発表へと持ち運んだ。5 月最後の週に世界各地域での評議会がウェブ会議ツールの ZOOM を利用し開催された。日本が所属する Western Pacific 地域は、5 月 27 日に開催され、2020～2023 年までの ICM の戦略方針が検討され、Western Pacific 地域理事候補のスピーチがオーストラリアの Ann Kinnear 氏と著者の谷口で行われた。後日の結果では、12:10（白票1）でオーストラリアの Ann Kinnear 氏に決定した。みなさまの多大なるご支援に関わらず、諸外国の票を得る事の難しさを痛感した。

全体会議の主な内容

最終の全体評議会は、6 月 26 日に 3 か国語の同時通訳が使用できる Interprefy というソフトを使用して、ICM 加盟 143 団体の評議委員約 170 名近くがリアルタイム（日本は午後 7 時から 9 時過ぎまで）で参加し、評議会が開催された。全体評議会は、A:議案の投票結果発表、B:退任役員、新役員紹介、C:助産師と看護師の専門性に関する討論会、D: ICM Global Ambassador Mrs. Toyin Saraki のさよなら講演、E: Franka 会長の閉会の辞で構成された。この中から、A：議案投票結果、B: 退任役員、新役員紹介、D: ICM Global Ambassador Mrs. Toyin Saraki について述べる。

A:議案投票結果

事前投票には、118会員団体から評議員 227 名の参加で、現在加盟団体 143 団体の 82.5%で定数を満たした。その中で有効票は 202 で 85.2%であった。8 項目全てに関して、承認された。重要な項目に関して述べる。

1） ICM の財政赤字のための将来性を鑑みた新会費制度導入（案）は、各団体の会員一人当たりコーヒ 1 杯の代金を ICM へという名目の新制度であり、下記の様に可決され 2023 年度 100%達成となる。

賛成 128（76.6%：167 票に対して）、反対 39（23.4%：167 票に対して、白票 35（17.3%：202 全体）

2） 2017 年に WHO の地域に沿って改訂された理事の数に関して、現 10 名（ヨーロッパ3、アフリカ2、アメリカ 2、東地中海1、東南アジア1、西太平洋1）から 6 名に削減（ヨーロッパ 1、アフリカ 1、アメリカ 1、東地中海1、東南アジア1、西太平洋1）可決

賛成 151（83.9%：180 票に対して）、反対 29(16.1%：180 票に対して、白票 22(10.9%：202 全体)

3）2020－2023 の ICM Strategy Development は 10 項目の内下記の 4 項目が採択可決された。これらは、文言は多少変わるが ICM で最終的な戦略表記として後日発表される。

①Leadership by and for midwives nationally, regionally, and globally

助産師による助産師のための全国的、地域的世界的なリーダーシップ

②Quality of midwifery care, which includes Education, Regulation, Research and Respectful care

教育、規制、研究、敬意のあるケアを含む助産ケアの質

③Strengthening midwifery as a profession (Professional framework)

専門職としての助産の強化（専門家の枠組み）

④Promoting midwife-led continuity of care

助産師主導のケアの継続の促進

4） 第 34 回 ICM3 年毎大会 2026 のホスト国は 3 か国の応募があり、上位 2 か国が選ばれ、最終的に ICM 理事会で決定されることになる。リスボン　159 票(39.4%)、パリ　133 票(32.9%)

B:退任役員、新役員紹介

役職	旧新
会長	Franka Cadee（2 期目、オランダ）
副会長	Mary Kirk（オーストラリア)から Sandra Oyarzo Torres（チリ）
会計	Ingela Wiklund（スエーデン)から Vitor Varela（ポルトガル）
各地域理事	
北ヨーロッパ	Trude Thommesen（2 期目、ノルウェー）
中央ヨーロッパ	Serena Debonnet（ベルギー）から Lisa Apini-Welcland（ドイツ）
南ヨーロッパ	Rita Borg-Xuereb（マルタ）から Victoria Vivilaki（ギリシャ）
アフリカ（英語圏）	Jemima Dennis-Antwi（ガーナ)からHilma Shikwambi（ナミビア）
アフリカ（フランス語圏）	Fatoumata Maiga Dicko（2 期目、マリ）
北アメリカ	Emmanuelle Hébert（カナダ）から Pandora Hardtman（USA）
南アメリカ	Sandra Oyarzo Torres（チリ)からFlorencia Francisconi（アルゼンチン）
東地中海	Rafat Jan（パキスタン）からRoa Altaweli（サウジアラビア）
東南アジア	Emi Nurjasmi Indomo（2期目、インドネシア）
西太平洋	Hatsumi Taniguchi（日本）から Ann Kinnear（オーストラリア）

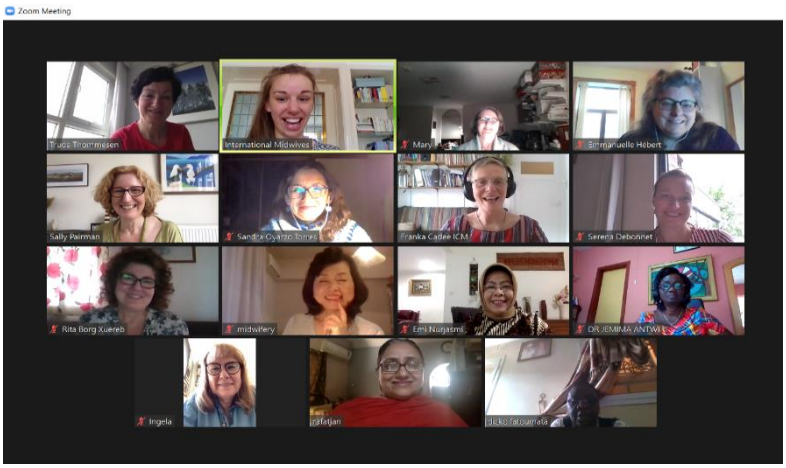
D: ICM Global Ambassador Mrs. Toyin Saraki

FrankaCadee ICM 会長の司会進行で、Toyin Saraki 氏の ICM Global Ambassador としてのさよなら講演が終了し、中央ヨーロッパ担当理事の Serena がフランス語で、そして Western Pacific 担当理事の筆者である谷口が英語で ICM 理事、事務局、全世界 100 万人の助産師からなる 143 会員団体を代表して、Ms. Toyin 今までの ICM に対する素晴らしい功績と助産師の活動を世界へ広くアピールしたことに関して賛辞を送った。

ICM 理事としての 3 年間

筆者がICM　評議会への日本代表として参加したのは、2014年のプラハ大会の時が初めてであった。日本助産師会から岡本喜代子会長と共に国際委員長として参加した。その時に、米国の親日家であるDorothea Lang（当時82歳）さんから「**助産師よ、強くあれ！**」の励ましのお言葉を頂き、2017年トロント大会でWestern Pacificの理事に就任するという驚くべき名誉な機会を頂いた。あれから3年間、ICM理事としてプロフェッショナルな世界中の理事達と共にICMのガバナンスを担う会合の中に入れたことにより、よりグローバルな視点で助産の展望が拡大された。同時に、この素晴らしく人間味あふれる温かなプロフェッショナルの仲間の中での仕事は、著者自身をより豊かにしたように思う。これまでのご支援に感謝申し上げると同時に、私の後に続く日本からの理事をぜひ皆さんの力で推薦して世界に送ってほしいと願う。

Franka 会長の司会進行での Dr.Toyin Saraki のさよなら講演。左上の ICM Global 大使の Ms.Toyin Saraki、2 段目 Serena（中央ヨーロッパ担当理事）、3 段目谷口（Western Pacific 担当理事）



素晴らしき ICM の理事と事務局の仲間たち